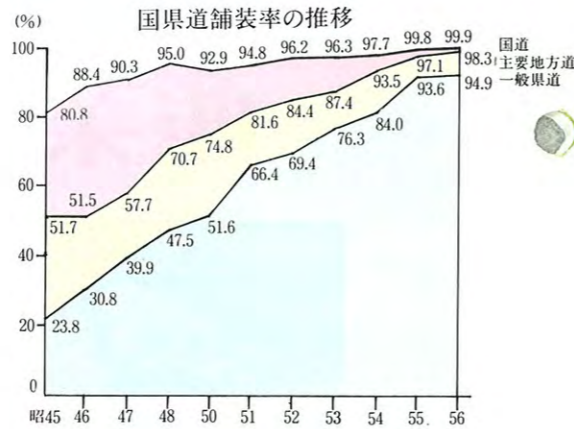


陸・海・空 交通ネットワークの 整備促進

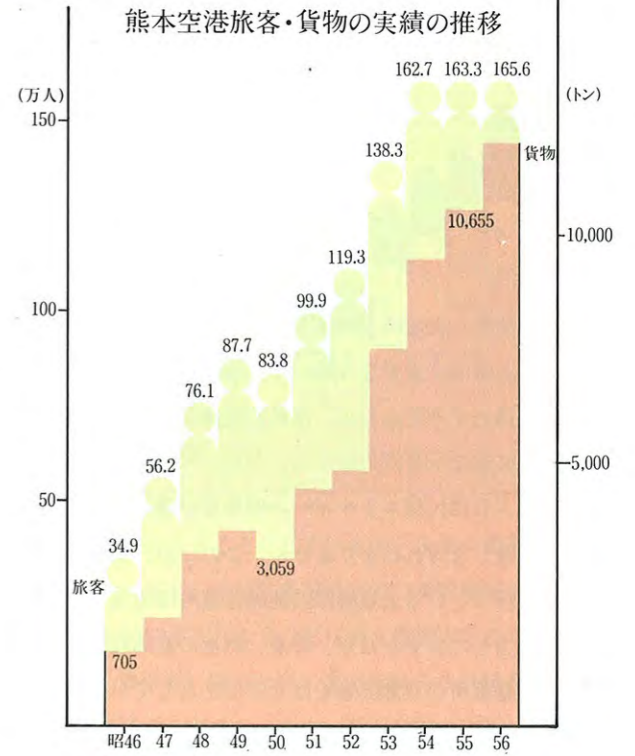
熊本県は、豊富な土地、水、労働力、温暖な気候などにめぐまれています。東京、大阪などの大都市地域とは遠く離れており、熊本県での地域開発を積極的に進めるには、効率的な高速輸送手段を確保することが必要です。また、交通手段に対する要求も高度化、多様化すると考えられ、これに対応した交通体系の整備を積極的に進めなければなりません。

まず、幹線交通網の整備については、九州縦貫道が昭和55年3月八代インターまで供用され、八代～熊本～福岡の時間距離が大幅に短縮されました。今後人吉までの開通により県内の開発可能性が一段と拡大されるものと期待されています。また、道路網の整備についても域内交通の円滑化と機能の拡充に重点をおき、積極的な投資



を行ってきました。その結果、国・県道の整備率は大幅に向上しました。このほか、天草西海岸の観光や産業の開発をはかるため、昭和53年には本渡市～天草町間 3,852m の天草下島横断有料道路を供用開始しました。

熊本空港は、昭和46年の新空港開設以降、計器着陸装置の設置、エプロン増設などが行われ、55年には滑走路3,000mに延長されるなど整備が進んだ結果、56年には乗降客数も165万人に達しています。このほか、国際線ターミナルビルの建設に着手しており、年度末までには完成する予定です。熊本港の建設については、昭和51年に第5次港湾整備5ヶ年計画に組み込まれ、これまで橋梁工事を行ってきましたが、今後は、60年までに内貿主体の施設整備、65年までに外貿ふ頭の供用開始を目指



し工事を進めています。

このほか、重要港湾である八代港、三角港の岸壁や泊地などの整備につとめてきました。

